

週刊 **タバコの正体**

タバコは色々な病気の原因になる事を紹介してきましたが、それはタバコを手を持って自分の口から煙を吸いこんでいる人、つまり喫煙者に限った話のように聞こえます。ところがタバコを吸わない人にも大きな関係があります。

すでに知っている人も多いはずですが、タバコは喫煙者が吸い込む主流煙よりも、火の着いている先端から出る副流煙の方が何倍も有害です。そんな有害成分を多く含んだ煙は予想以上に広範囲に広がります。白い煙は見えなくてもニオイを感じる事は多いですからね。ニオイを感じるという事はタバコの有害成分が鼻にも届いていて、それを吸いこんでいると言う事なのです。



全国健康保険協会 秋田支部 HP から

自分はタバコを吸わなくても、近くでタバコを吸われると副流煙だけではなく喫煙者が吐き出す煙(呼出煙)、それに衣服や髪の毛にしみ込んだ有害成分を吸いこむこととなります。これが「吸いこんでいるつもりがないのに吸わされている」受動喫煙ですが、タバコに手をつけた事がないのに知らない間に健康被害を受けるのは気の毒な状態です。



健康ひょうご21県民運動ポータルサイトから

タバコは血管を傷め、心臓や脳で重大な病気をおこす事を繰り返し紹介してきましたが、この現象は受動喫煙においても同じなのです。下の表にあるように受動喫煙が原因で死亡した人は毎年1万5000人もいます。

一生タバコを吸うつもりはないのに吸わされる頻度が多いと喫煙者と同じ健康被害にあう確率が高くなるなんて理不尽です。だから受動喫煙をなくす対策は絶対必要ですよ。

受動喫煙による年間死亡数の推移

肺がん	2480人
虚血性心疾患	4460人
脳卒中	8010人
乳幼児突然死症候群	70人
計 約1万5000人	

(厚労省研究班による)